

創造の柱

TTC事務局OB 谷口 康一

夏に見える天の川の最も明るく見える辺りに6つの星がひしゃくの形に並んだ南斗六星が見えます(写真1)。その少し上の方に「わし星雲(M16)」と呼ばれる、星が集まった散開星団とガスや塵でできた散光星雲が合わさった天体(M16まで地球から約7000光年)があります(写真2)。

このM16の中心部分に、1995年、および2014年にハッブル宇宙望遠鏡により撮影され、そのガスと塵が新しい恒星を創造している最中ということで「創造の柱」と名付けられた形が見えます。写真3は、水素原子が発する赤色の光と、酸素原子が発する水色の光だけを撮影、合成したものです。写真4は、硫黄原子、水素原子、酸素原子が発する光だけを撮影し、各原子が発する光を、それぞれ赤色、緑色、青色として合成し、ハッブル宇宙望遠鏡による写真の色合いのように表現したものです。

TTCレポート2013年1月号の片隅に天文記事を掲載させていただいてから今回で50回目となります。いつまで継続できるか分かりませんが、宇宙のさまざまな様子を楽しんでいただければ幸いです。

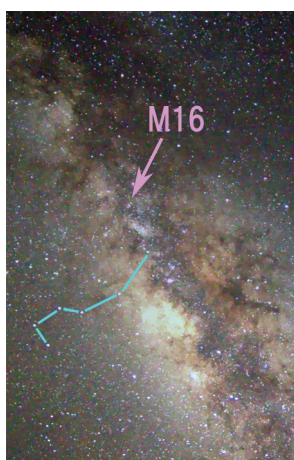


写真1. 天の川、南斗六星、M16 (ハワイ島にて)

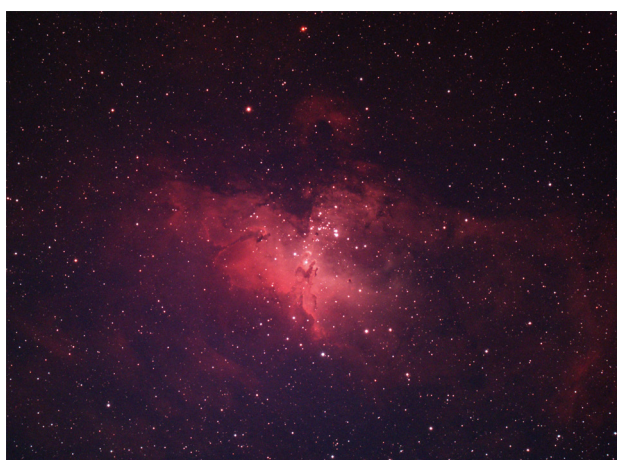


写真2. M16「わし星雲」(横浜にて)



写真3. 創造の柱 (HOO 合成)

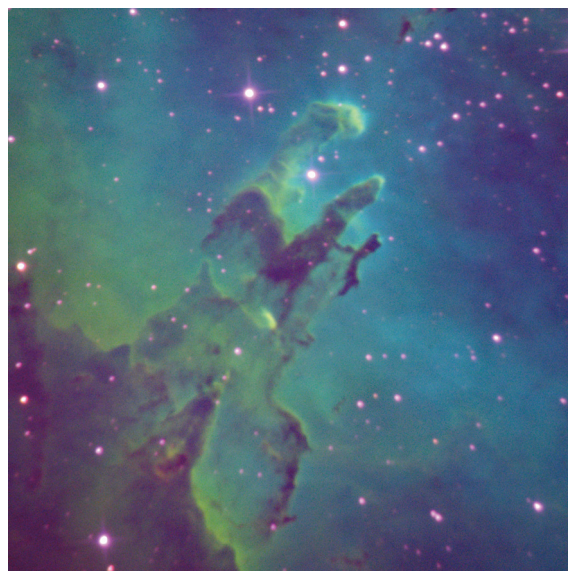


写真4. 創造の柱 (SHO 合成)

各写真の横幅は、写真1：約33度、写真2：満月の約2.2倍、写真3、4：満月の約0.3倍